



日経トレンディ 2020年7月号

saving money is fun!

京都 茨木春草園

## 「キャッシュレス+a」で 生き残る老舗生花店

京都で100年以上の伝統を誇る生花店「茨木春草園」。二条通に面し、創業は1914年に遡る本店の他、京都東急ホテル内と東京・神保町の「バリの花通り」の小売店3店舗などを運営している。この老舗にも、新型コロナウイルスの惨禍は降り注いだ。2020年3月の生花の売り上げは7割減、同4月は実に9割減と、大苦戦を強いられた。少しでも売り上げに寄与する方策はないものか。負の流れを何とか断ち切るうと考え出されたのが、「母の日ドライプスルー」だった。客は事前にホームページで数種類のギフトから選んでおき、受取時間や車種などを入力して注文。当日に車で赴き、精算してギフトを受け取る。同店は駐車場がないためスムーズな受け渡しが必要になるが、そのときに役立ったのがモバイル式のキャッシュレス端末だった。

この端末は、加盟している花キュービットの京都支部が、19年の増税のタイミングで一斉に導入を決めたロイヤルゲートの「PAYGATE Station」だ。QRコード決済、電子マネー、クレジットカード、共通ポイントと幅広く対応し、モバイル性も兼ね備えた端末だが、定価は税別7万円。生花店では明らかにオーバースペックだと思われていた。それがドライプスルーの決済端末として大いに活躍した。5月7、10日の期間限定の試み。考えたのが4月下旬で準備は突貫工事、告知期間も十分ではなく、売り上げへの影響は限定的だった。だが現金からキャッシュレスへの不可逆的な流れを感じ、今後は積極的にキャッシュレスを案内していくつもりだという。キャッシュレス端末を使ったドライプスルー型の販売も続ける方針だ。



1 大正3年から続く、京都の老舗「茨木春草園」2 3客はクルマに乗ったままキャッシュレスで決済。ギフトを受け取れる 4 PAYGATE STATIONはモバイルでの決済が可能 (写真はイメージ)

